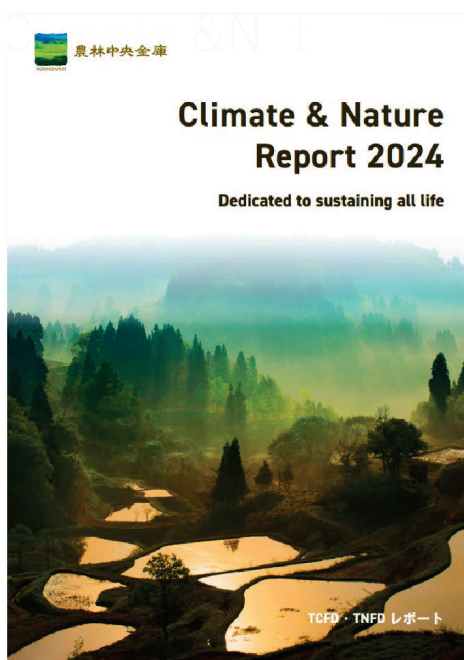


農林中央金庫

農林中央金庫 の取組みのご紹介

2024年6月19日

JBIB 16周年記念シンポジウム



- 2024年3月にはTCFD提言およびTNFD提言を踏まえ、気候変動への対応および自然資本・生物多様性への対応を統合的に開示する「Climate & Nature レポート 2024」を発行しました。
- 2050年ネットゼロに向けた取組掲載のほか、ポートフォリオの自然関連のリスクと機会の把握を目的に、投融資先企業のバリューチェーンも視野に入れた自然への依存とインパクトにかかる分析を試行的に実施しております。
- 本日は本レポートの内容について、ごく一部をご紹介します。なお、本レポートは、当金庫のHP上で公開しておりますのでぜひご一読賜りますようお願い申し上げます。

https://www.nochubank.or.jp/sustainability/backnumber/pdf/2024/climate_nature.pdf

当金庫は農林水産業を基盤としており、バリューチェーンの下流のみならず上流でも自然と密接に関わるユニークな金融機関

当金庫と自然との関係性(バリューチェーンを通じた自然との接点)



ガバナンス

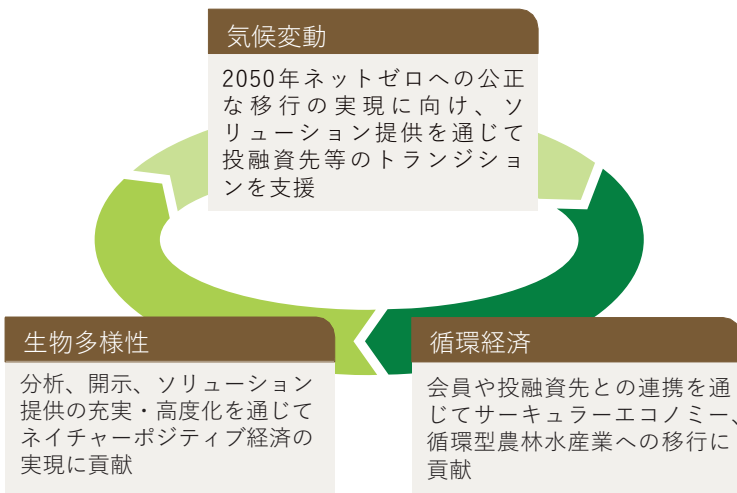
戦略

リスク(インパクト)管理

指標と目標

当金庫は、存在意義（パーパス）の実現に向けて事業運営を進める経営の羅針盤として2024年3月に中期ビジョンを公表

中期ビジョン：2030年のありたい姿



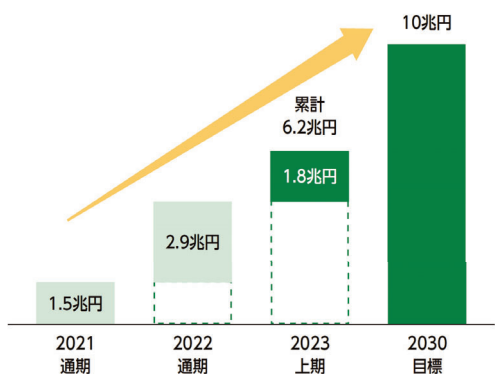
イニシアティブへの参画





サステナブルファイナンスを2030年までに10兆円新規実行する目標を掲げ、気候変動対応や生物多様性保全に向けた投融資も実践

サステナブル・ファイナンス新規実行額（2021年度～2030年度）



累計新規実行額（6.2兆円）の内訳		
投融資	市場運用資産等 国内外 ESG 株ファンド、 国際機関債、IG ファンド等	3.8 兆円
	プロジェクトファイナンス 再エネ関連、水処理・学校・ 病院等社会関連プロジェクト 向けファイナンス等	1.4 兆円
	ESG ローン グリーンローン、サステナビ リティ・リンク・ローン、ト ランジション・ローン等	0.8 兆円
調達	グリーンボンド・グリーン 預金	0.3 兆円

サステナブル・ファイナンスの主な取組事例

J Aバンク会員による協調方式のトランジション・ローン

脱炭素社会の実現に向けた長期的な戦略に基づき GHG の削減に取り組む電力会社に対し、J Aバンク会員でシンジケート団を組成してトランジション・ローンを実行

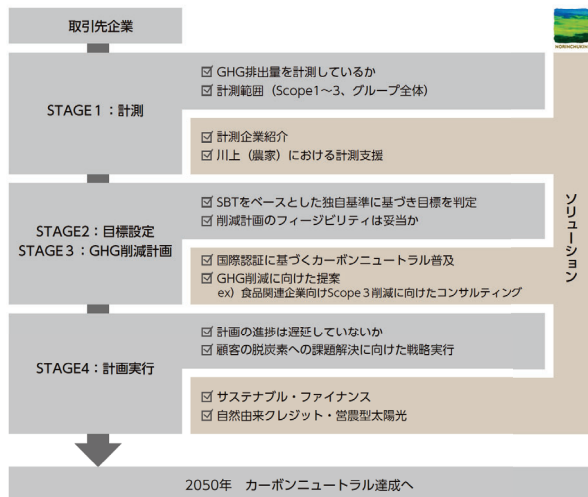
生物多様性保全をテーマとするサステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資

世界銀行が「生物多様性の保全の啓発」を目的に発行するサステナブル・ディベロップメント・ボンドへ総額 300 百万豪ドルの投資を実行。開発途上国における生物多様性の保全やその重要性の啓発に貢献

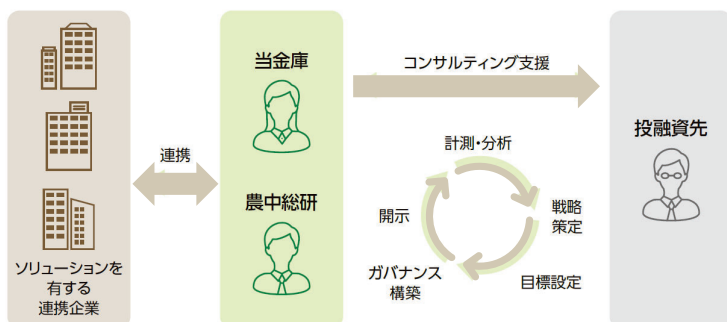


気候関連と自然関連それぞれで、エンゲージメント方針を策定し、取引先との対話を強化

気候関連のエンゲージメント方針

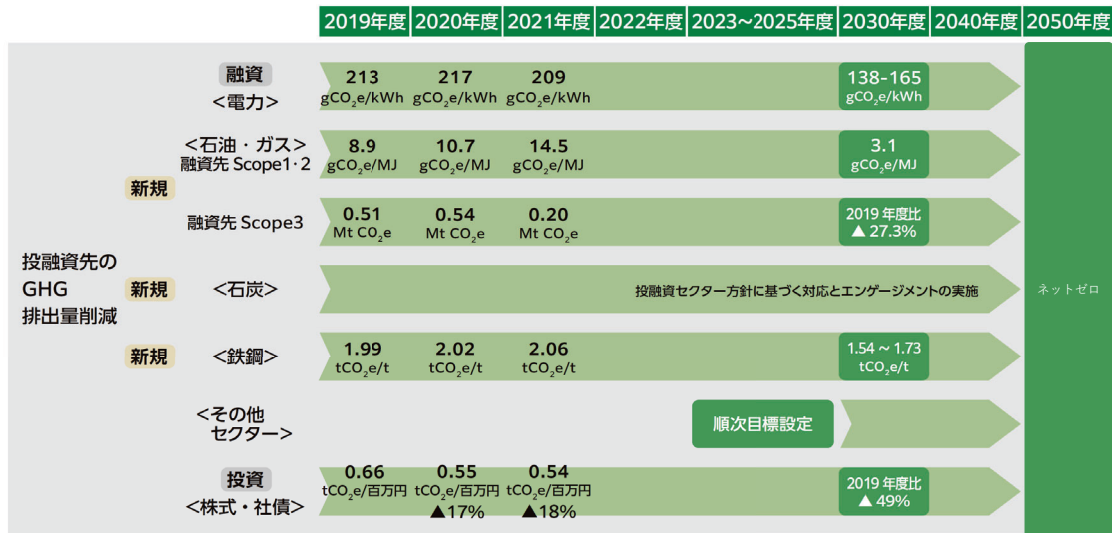


自然関連の関連のエンゲージメント方針



融資ポートフォリオにおける目標設定を順次追加し、2050年ネットゼロに向けたロードマップを拡充したうえで実践

2050年ネットゼロに向けたロードマップ



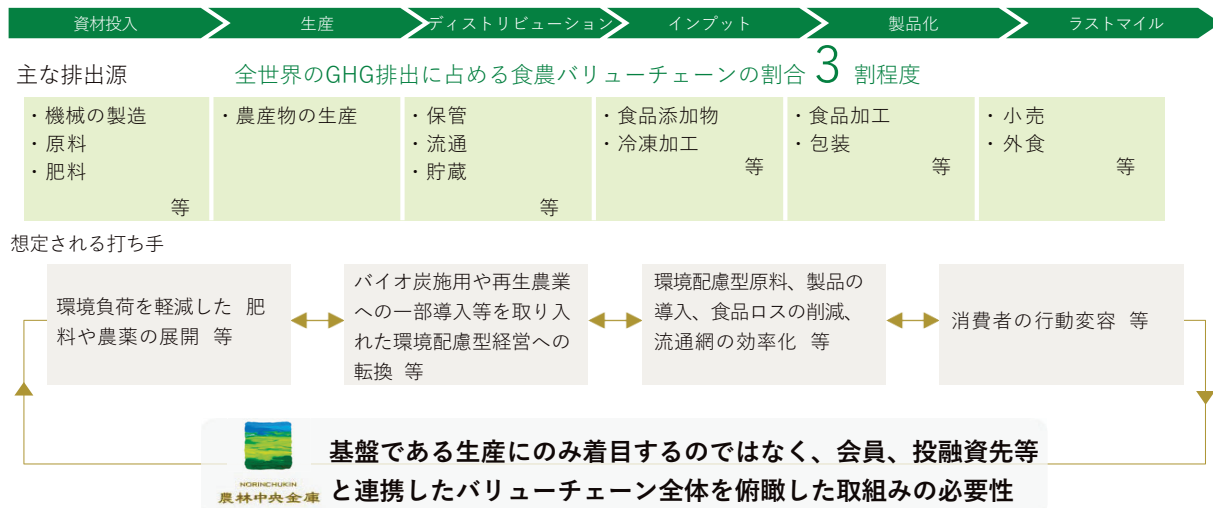
Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.

7

農業・食品については、バリューチェーン全体を俯瞰したアプローチを検討し、トランジションを推進する

農業・食品のバリューチェーンの脱炭素化（トランジション）に対する問題意識

要略



Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.

8

物理的リスクの分析を通じて気候変動の影響は生産者の収入低下をもたらす可能性を認識、適応策導入が農業・漁業ともに重要

物理的リスク（慢性リスク）分析



農業

気候変動の影響により収入は低下するものの、**適応策導入により横ばいを確保することが可能**

	シナリオ	生産量	価格	収入（適応策なし）	収入（適応策導入）
稲作	4℃上昇	▲ 6.4%	+ 1.4%	▲ 5.0%	+ 3.5%
	2℃上昇	+3.3%	▲ 1.6%	+ 1.7%	-
生乳	4℃上昇	▲ 1.1%	+0.9%	▲ 0.1%	± 0.0%
	2℃上昇	▲ 0.2%	+0.2%	± 0.0%	-
肉牛	4℃上昇	▲ 1.2%	+0.6%	▲ 0.6%	± 0.0%
	2℃上昇	▲ 0.3%	+0.2%	▲ 0.2%	-

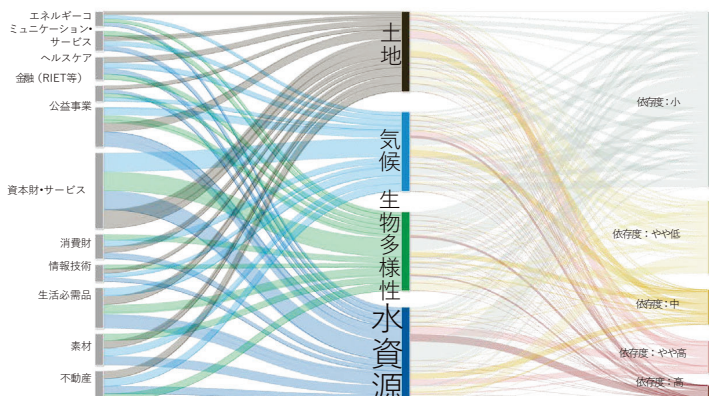
漁業

気候変動の影響により収入は地域差が発生するものの、**適応策導入により収入減少を抑制することが可能**

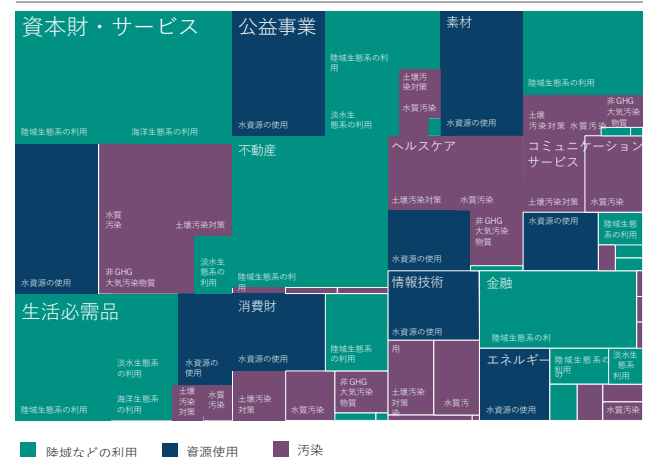
	シナリオ	漁獲量	価格	収入(適応策なし)	収入(適応策導入)
海面漁業 かつお	4℃ 上昇	▲ 9.2% ～ +4.7%	▲ 0.6% ～ + 1.3%	▲ 8.0% ～ +4.0%	▲ 7.6% ～ +4.0%
	2℃ 上昇	▲ 9.2% ～ +9.5%	▲ 1.2% ～ + 1.3%	▲ 8.0% ～ +8.1%	▲ 6.1% ～ +4.0%

ポートフォリオにおける依存とインパクトを分析し、広範なセクターで水資源に大きく依存、建設・機械、食品・飲料、化学・素材等が、水利用、GHG排出などを通じてインパクトが大きいことを理解

当金庫投融資先ポートフォリオの自然への依存

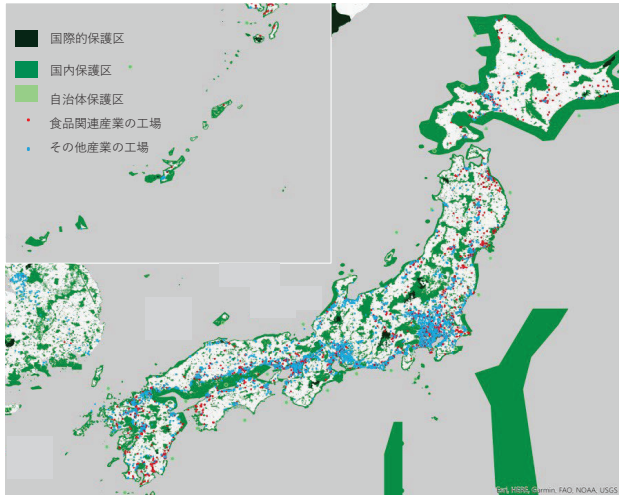


当金庫投融資先ポートフォリオの自然へのインパクト



ロケーションの重要性を意識し、融資先の重要拠点と保護区との関係性を可視化したほか、30by30への貢献につながる取組みを試行

融資先と自然保護区とのロケーションにおける関係性



出所：ArcGIS を用いて当金庫作成

Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.

Column

30by30 目標への貢献



鹿児島県の漁業者

- 指宿市にて定置網を経営
- ブルーカーボンをキーワードに藻場保全活動を長年展開



農林中央金庫

- 30by30にかかる情報提供
- 申請にかかる関係者連携調整および助言



鹿児島県指宿市山川漁港周辺の一部海域について、**漁業と生態系保全が共存するサイト**として、「**自然共生サイト**」に申請（漁業者・JF主体の申請としては全国初）

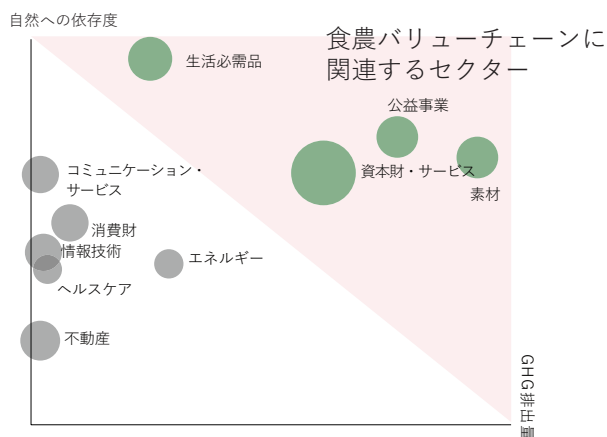


写真撮影：当金庫

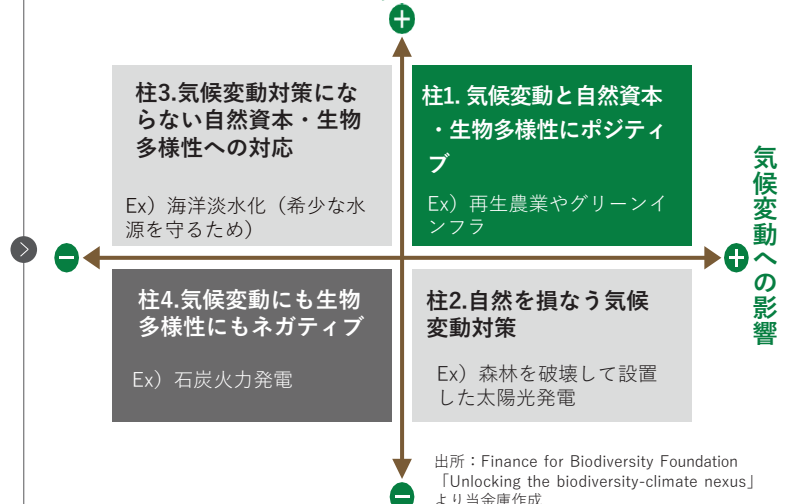
11

各種分析を踏まえて、気候と自然のネクサスの観点から食品等のセクター（食農バリューチェーン）への対応が重要と改めて特定

気候と自然の観点からのセクター評価



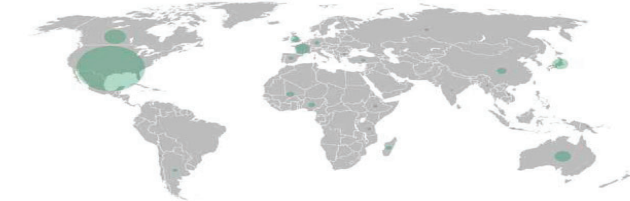
自然資本・生物多様性への影響



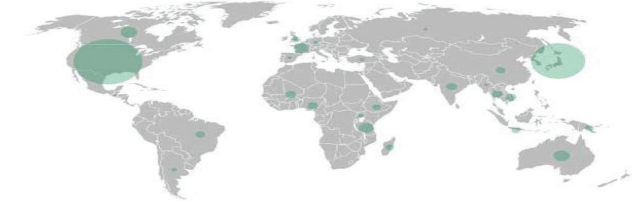
Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.

12

包装食品・肉セクターについて国内を中心とする企業のサプライチェーンの累積的な環境インパクトを可視化すると、アメリカの農業の土地利用や水消費へのインパクトが大きいことを確認



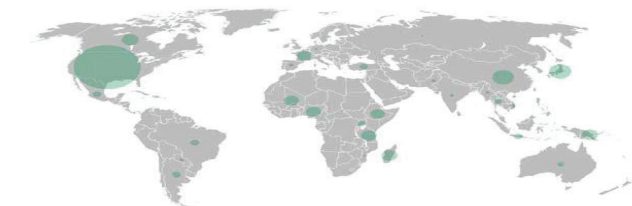
土地へのインパクト
(当金庫の包装食品・肉へセクターの投融資によるインパクト)



バイオマス使用量



ブルーウォーターフットプリント
(原材料調達するにあたって、消費される淡水資源の量)



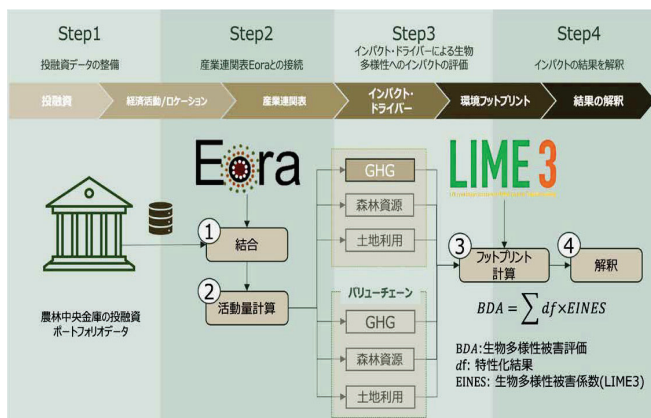
グリーンウォーターフットプリント
(原材料調達するにあたって、消費される雨水資源の量)

出所：株式会社 aiESG 資料より当金庫作成
Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.

13

EINES 指標をフットプリント指標とし、生物多様性（種の絶滅への寄与）への影響を可視化。日本の生活必需品、アメリカのヘルスケア等の影響が大きいと特定できた

ライフサイクルアセスメントの分析フロー(LIME3のアプローチ)



出所：早稲田大学伊坪研究室

Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.

地域 EINES 指標(GICS セクター):投融資先のGHG排出が生物多様性へ与える影響

	生活必需品	公益事業	素材	資本財・サービス	エネルギー	コミュニケーション・サービス	ヘルスケア	金融	消費財	情報技術	不動産
アメリカ											
アメリカ以外米州											
欧州											
アジア											
日本											

注 赤に近づくほどEINES指標が高い

参考 地域別 Financed Emission (GICS セクター)

	生活必需品	公益事業	素材	資本財・サービス	エネルギー	コミュニケーション・サービス	ヘルスケア	金融	消費財	情報技術	不動産
アメリカ											
アメリカ以外米州											
欧州											
アジア											
日本											

注 赤に近づくほど多排出

出所：早稲田大学伊坪研究室資料より当金庫作成

14



今後の展望

気候と自然の課題は不可分であり、統合的に捉え、着実に対応を進めていく必要があります。

しかし、私たちが向き合う農林水産業と同様に、気候や自然を相手にした取組みは一朝一夕に変化や成果を生み出すものではありません。農林水産業や地域の現場には、「いのち」を生み、育て、つないでいく営みがあります。そして、その先に連なるたくさんの「いのち」の営みの生態系が私たちの暮らす社会を形作っています。これらを常に胸に抱きながら、ステークホルダーの皆様とともに役職員が一丸となって、当金庫はネットゼロとネイチャーポジティブの実現という課題に挑戦し続けます。

Copyright© 2024 by The Norinchukin bank. All rights reserved.



気候

- 投融資を通じたGHG排出量の削減に向け今後も追加の目標設定や投資資産における排出量の計測対象の拡充
- 融資ポートフォリオの2024年度も高排出セクターを中心に目標を設定
- シナリオ分析の拡充やリスク管理の高度化
- 目標を踏まえた投融資先等との深度あるエンゲージメント活動を通じて移行計画の実践とさらなる開示の充実



自然
生物多様性

- 投融資ポートフォリオにおける自然への依存とインパクトの状況にかかる分析、バリューチェーン、ロケーションおよびシナリオ分析のさらなる拡充を図り、リスク管理と機会の捕捉
- 食農関連企業へのエンゲージメントやコンサルティング支援なども拡充するとともに、外部との連携やネットワーク構築
- ネイチャーポジティブの実現に向けた移行計画の策定、および目標設定に取り組む

Climate & Nature Nexus



当金庫は、この困難な時代に「いのち」の連鎖を絶やさぬよう、次の100年に向けた種をしっかりと蒔き、**協同組織と金融の力でポジティブ・インパクトを創出し、持続可能な農林水産業、そして経済・社会の実現に向け貢献**